



IIPS

平和研講演会シリーズ 2005  
2005 IIPS Lecture Series  
“安定した国際社会の構築と日本の役割”

駐日中国大使  
王毅閣下

「中国大使としてみる最近のアジア情勢」  
2005年9月30日 於：東京全日空ホテル

世界平和研究所は、日本財団の協賛を受け、平成17年9月30日、東京全日空ホテルにおいて、王毅駐日中国大使による「中国大使としてみる最近のアジア情勢」に関する講演を開催した。

王毅大使は、アジアの最大の特徴は多様性にあり、アジアには大国から小国、あるいは日本のような経済強国も存在し、中国のアジア外交において常に主要地域として位置づけられると指摘し、さらに次のように続けた。

中国は発展によって世界の平和をさらに擁護するためアジアを重視しているが、これには協力の精神を貫くことによって平和を守り発展を遂げ、問題や紛争の解決を行うことが必要である。このため、中国は地域におけるいかなる覇権も一極主義も認めていないし、今後も認めない。



の重要な分野で共通利益を有するなど堅固であるし、東アジア共同体については、中国はオープンな地域集団の推進を目指し、かつ中国は米国の利益を尊重することから、問題は起こりにくいと思われる。王毅大使は、以上のような指摘を行った後、さまざまな分野の質疑に応じて講演を締めくくった。

中国はすでにASEANの他、インドやロシアとも戦略的パートナーシップ関係を構築する他、韓国とも全面協力的な関係を構築し大きな成果を上げている。また、東アジア共同体についても、中国は重要な役割を果たす積もりであるが、米中関係については楽観している。なぜなら、すでに米中関係は貿易、テロ抑止など多く

